

岡山県では、石井知事のもとに、「マニフェスト」の先駆けともいえる具体的な数値目標を盛り込んだ「新世紀おかやま夢づくりプラン」を4年前に策定した。その中で、ユニバーサルデザインは、今後、県の進むべき方向として位置づけられている。さらにユニバーサルデザイン推進指針が策定され、「自立と協働」を基本とする県政の柱にユニバーサルデザインを据えた。県民とともに行動する岡山県をめざす。



いしい まさひろ●1945年、岡山県生まれ。1969年、東京大学法学部卒業後、建設省入省。岐阜県民生部児童家庭課長へ出向。1983年、建設大臣秘書官。1995年、建設大臣官房審議官。1996年から現職(3期目)

UDマインドを広めて ボランティア精神豊かな 県民性を引きだす

岡山県知事 **石井正弘氏**
聞き手 梶本 久夫 本誌編集長



ユニバーサルデザイン推進指針
県民が主体的に活動する「快適生活県岡山」を標榜し、ソフト、ハードを総合した「ユニバーサルデザイン推進指針」



ユニバーサルデザインの典型を示す県民室（県庁玄関脇）には、ユニバーサルデザイングッズを展示している



できあがった県民室が、実際に使い心地がよいかどうかを検証



県民室をつくるにあたり、委員会をつくり、さまざまな人の意見を集めた

全庁横断のUD推進本部を設置

岡山県政の設計図である「新世紀おかやま夢づくりプラン」の改訂加速版を2004年にお出しになりましたね。

石井 夢と希望にあふれる岡山県づくりを推進するため、02年度から5年間のアクションプランとして具体的な数値目標を盛り込んだ「新世紀おかやま夢づくりプラン」を策定しました。3年目の04年に、時代の要請や情勢の変化に対応し、夢づくり推進をより加速させるための改訂を行い、「ユニバーサルデザインの推進」「食の安全の確保」「新産業の創出」の3つを追加しました。

04年には、「おかやまユニバーサルデザイン推進指針」を策定され、利用者との対話重視や、継続的見直し・改善（スバイラルアップ）など革新的な内容がまとめられています。

石井 9年前に私が知事に就任したとき「やさしさ」の県政を訴え、福祉のまちづくり条例の制定や、まちのバリアフリー化に力を入れて進めてきましたが、少子高齢化、情報化、国際化の加速的な進展など、今の法律や条例だけでは対応できない面が依然として存在します。もっと利用者と話し合い、県民と協働する柔軟な姿勢が必要だと感じました。

さらに、これからは高齢者、障害のある方への配慮はもちろん、子どもや子育て中の夫婦、外国人など誰もが暮らしやすい環境をつくる必要があります。しかし、ハード面もソフトの面も、まちのいたるところにまだまだ直すところが存在します。ユニバーサルデザインに積極的に取り組んでおられる熊本県の潮谷知事とお話して、

ユニバーサルデザインは岡山が進むべき道だと確信しました。そこで一昨年、有識者や多様な県民からなる懇話会を立ち上げて、ユニバーサルデザイン推進指針を作成したのです。

組織的には、企画振興課にユニバーサルデザイン推進班を新設するとともに、知事を本部長とする「ユニバーサルデザイン推進本部」を設けて、全部局からユニバーサルデザイン事業を提案、実施させていきますね。

石井 ユニバーサルデザインはすべての部局が取り組む課題だと考えています。現在、県民にUD（ユニバーサルデザイン）マインドを普及することが急務だと考え、UDサポーターを育成するとともに「おかやまUDネットワーク」を産学官民連携して立ち上げました。サポーターの皆さんにはユニバーサルデザイン社会を実現するための中心になってもらいたいと思っています。

まず県庁（県民室）でモデルを示す

ユニバーサルデザイン社会の実現には、UDマインドの醸成が鍵になるとお考えですか。

石井 ええ。そのためには県が率先垂範しなければいけません。まずハード面で、ユニバーサルデザイン普及の足がかりにするため、県庁の玄関ロビーである県民室をUD化する大改造をしました。実際の作業にあたっては、委員会をつくり障害のある方、高齢の方、外国人などの意見を計画段階から聞き、カウンターの高さ、外国語案内の表記、打ち合わせ用の机やイスの高さなどを細部にわたり検討していただきました。いろいろな意見を聞く



昨年の国体は「ユニバーサルデザイン国体」を強調。障害のある人を基準にして、誰にでも楽しんでもらう国体をめざした（桃太郎アリーナ）



「岡山県出身」で、現代っ子の桃太郎と星をイメージしたマスコット「ももっち」が大活躍（岡山国体）

ことで、ロビーひとつつくるのにも深い智恵の結晶が必要だと実感しました。県民の皆さんにこのロビーに来ていただくことで、多くを学んでもらえると思います。

県民室には、相談や打ち合わせコーナーだけではなく、ユニバーサルデザイン製品を展示していますね。

石井 啓発とともに、今後、ユニバーサルデザインを製品化して岡山の産業につなげていきたいと考えています。岡山県は、二次産業の割合が非常に大きいですが、医療福祉の分野では石井十次^{※1}や大原孫三郎^{※2}といった先覚者がいます。医療系大学も2つあって、この分野の先進県です。志も開発能力もある。この強みを生かしてハートフルな産業を興していきたいと思います。そのためには、産官学の連携を推し進めることが肝要です。すでに大学、ユーザー、産業と自治体が協働してつくったものが市場化されはじめています。

ミツラーもその一つですね（87ページ）。

また、学生が自主的に集まって、障害のある方に楽しい思い出をつくっていただくために、障害のある人が使える飲食店などを案内する観光地図をつくったり、まちの清掃をしてくれました。

キマリ☆ネットですね。これも取材させていただきました（91ページ）。岡山国体のボランティアの活躍は目立ちました。

石井 それは成功の一因です。彼らをはじめとする県民の方々の強い協働があったからこそ、大会を成功裏に終えることができたのだと思っております。

UDリーダーを育て、支援する

若者のパワーも期待できますね。

石井 キラリ☆ネットなど若者の中にUDマインドが次



子どもやボランティアなどがさまざまなかたちの紙に選手をもてなすメッセージを書いたプレートが正面玄関に（桃太郎アリーナ）



全館に段差がなく、車いす席は観客が総立ちになっても支障がない（桃太郎アリーナ）



使いやすさとわかりやすさを追求したユニバーサルデザイントイレ（桃太郎アリーナ）



桃太郎アリーナまでの道もユニバーサルデザイン化した。車いすだけではなく、自転車にも配慮して自転車専用レーンをつくり、誰にでも快適な道づくりをめざした

石井 そうです。県民室をそういった岡山発のユニバーサルデザインでいっぱいになりたいものです。

協働がUD社会を実現する

ユニバーサルデザインの事業化には、ハードにしてもソフトにしても資本が必要です。

石井 確かに同じ工事も、ユニバーサルデザイン化によってプラスαの費用がかかります。しかしUDの意義や利便性等をトータルで考えれば、ユニバーサルデザインには広範な支持がいただけるものと思います。また支持を得ることが県の務めです。

ユニバーサルデザインの理念に基づいた施設整備は、地域の文化価値を高めます。今後は民間の建物もそうなっていくと思います。

県の事業によってユニバーサルデザインのテコ入れを行ってほしいですね。

石井 そうです。まちのポイントを押さえるわけです。たとえば、岡山駅周辺などが集まる場所とか、倉敷の美観地区など観光客の多いところがポイントになります。今、観光地のUD化などモデル事業が進行中です。楽しみにしてください。

まちのハード面の改造は、昨年の岡山国体を機に一新させましたね。

石井 昨年の岡山国体は環境やITとともに、ユニバーサルデザインを目玉にしました。

メインスタジアムである「桃太郎スタジアム」や「桃太郎アリーナ」は、あらゆる障害のある方に対応する設備を整えました。岡山駅から歩いて10分くらいのところ

にあるアリーナ周辺の道路も、国や市と連携してユニバーサルデザイン化しました。車いすの方はもちろんですが、自転車専用レーンをつくるなど、誰でも快適で安全に移動できるようにしています。

国道、県道、市道を連携して整備した点もユニークです。

石井 ハード面の整備では、庁内での部局間の連携を強化しています。国、県、市の協働と連携がユニバーサルデザインの実践には不可欠です。

岡山はボランティア資源が豊富

阪神淡路大震災のときは、岡山県民は個人でも団体でも、いち早く救助活動に乗り出し、兵庫県民は感謝しているそうです。

石井 あのとときは岡山県からもすごい人数が救援に出ていますし、また多くの被災者を受け入れてもいます。この精神は岡山の誇るべき財産です。

ボランティア精神が豊かな県民性なんではないか。

石井 昨年の国体のときは、市民が自発的にまちをきれいにしたり、花づくりをしてくれました。夏、秋の大会に続いて、11月の全国障害者スポーツ大会では、若者を中心に、介助や誘導に当たるサポーターなどボランティアが約6000人集まりました。

「ボランティア国体」でもあったわけですね。

石井 ええ、県ではそれらの方々や、タクシーの運転手さんなどに出席講座をして、ユニバーサルデザインやおもてなしの研修を受けてもらいました。ソフト面で全国からいらっしやる選手や観客をおもてなしする準備です。

石井 その通りです。そのようなユニバーサルデザインの社会づくりが、21世紀では「当たり前」なものになってほしいと思います。

ユニバーサルデザイン社会のために、知事がもっとも重要と考えることは何ですか。

石井 県民との協働によるUD基盤づくりに重点を置いて進めていきたいと考えています。「人材」づくりとして、UDのリーダーを養成するとともに、県民が、公民館など、協働によるUDを繰り広げられる「場」をつくり、活動の「母体」となるNPO等をわれわれが支援するという体制をつくる。このことにより、UDが真に県民の皆さんに身近なものとして定着し、各地域に根ざした県民参画による取り組みになっていくことを期待しています。

※1 孤児救済に尽くし、「児童福祉の父」と呼ばれる
※2 実業家。医療、福祉、教育など社会事業でも活躍した